

# 卷頭言

むなかた電子博物館 紀要委員会

委員長 平井 正則

むなかた電子博物館は開館 10 周年（関連記事あり）を迎える、紀要も今年度第 6 号発行に至りました。2009 年 4 月の紀要創刊号発刊以来、むなかた電子博物館、そして、電子博物館紀要には、多くの主に組織的な進展がありました。

まず、昨年 4 月にオープン、今年度 2 年目を迎える海の道むなかた館（宗像市文化学習交流館）の存在は、むなかた電子博物館（紀要を含む）運営活動の大きな支援となりました。地域の文化、歴史、教育の取材活動からイベント実行など多くの便宜を受けています。

また、2013 年度より、宗像市市民サービス協働事業「むなかた電子博物館運営業務」として採択され、比較的自由な形での予算運用が実現し、運営に活かされるようになり、紀要も安定した発行を目指せることになりました。

今回、第 6 号の発行に至った紀要では、毎号、むなかた電子博物館のあり方を基本テーマとして、県内資料館、水族館、動物園のいろいろな方面の専門家、宗像在住の注目される企業家などのご協力を得て、むなかた電子博物館スタッフとの座談会を特集し続けました。今号では、このむなかた電子博物館を運営するスタッフが集い、むなかた電子博物館の明日について具体的に討論する特集の座談会としました。これまでの博物館活動での取材、資料収集時に是非記録として残したい資料、地域の特に文化、歴史の貴重な研究資料などあまり紙数を気にせず投稿頂き、掲載して参りました。これまでの紀要・記事は将来的のページ構築に重要な資料として活かされると思います。

また、むなかた電子博物館を支える電子的しくみやソフトの構築については長足の進歩を重ねる I T 関連の現状、“動く技術”にどのようにその目的に沿って、取り入れ、利用、改変するかも課題であります。むなかた電子博物館の目的に沿って、安定して、市民との対話を支え、身近な博物館活動とするかは、なお研究目標といえます。

第 6 号編集を終えて、一層市民の方々へ、宗像の地域文化、歴史の中で生活する市民の学びや情報を提供し、夢を読んで頂けることを願っています。

「わたしも博物館活動や紀要編集に参加してみようかな？」とお考えの方は是非むなかた電子博物館への参加をお願いしたいと思います。

この10年、むなかた電子博物館の立ち上げ、掲載ページの構築に宗像市スタッフや多くの市民の方々のご支援、ご協力を頂きました。このテーマで興味ある事柄が紀要に全部掲載されるわけではありませんが、特に、地域の文化、歴史、教育に関し、これは記録に残すべき事柄とお気づきの方はぜひこの紀要に投稿頂き、むなかた電子博物館活動に参加頂きたいと思います。

今後とも、紀要の記事や内容についてのご意見など編集部へお寄せ下さい。